

Labo News

らぼ ニュース

発 行 所 公益社団法人愛知県臨床検査技師会
住 所 名古屋市中村区名駅5-16-17
花車ビル南館 〒450-0002
電 話 052-581-1013
F A X 052-586-5680
ホームページ <http://www.aichi-amt.or.jp/>
Eメール aamt@aichi-amt.or.jp
取引銀行 三菱UFJ銀行 柳橋支店
普通口座731-677
発 行 人 中 根 生 弥
編 集 人 武 山 純 也

No.441 目次

- ◆病理細胞検査研究班 基礎講座に参加して… (2)
- ◆Loyola University Medical Centerでの
短期留学研修報告…………… (4)
- ◆フィリピン検査室訪問記…………… (5)
- ◆地域ニューリーダー育成研修会に参加して… (6)
- ◆多職種連携のための臨床検査技師
能力開発講習会に参加して…………… (7)
- ◆地区だより…………… (8)
- ◆平成30年度日本血小板・顆粒球型
ワークショップ研修会…………… (9)
- ◆地区研修会…………… (10)
- ◆研究会…………… (11)
- ◆平成30年度愛臨技スキルアップ研修会… (12)

精度管理事業部の活動について

精度管理事業部 部長 菊地 良介

先輩方の並々ならぬ活動の下、安全で適切な医療提供の確保を推進するため、平成29年6月、医療法等の一部を改正する法律が可決され、品質・精度の基準が医療法上に明記されることとなりました。そして、本年12月1日には「医療法の一部改正」が施行されます。先輩方と時代の変遷によりお膳立ていただいたこの“変化”を生かすことができるように、精度管理事業部は愛知県下会員の皆さまの良き相談相手として歩んでいけるよう事業を推進していきたいと思っております。

さて、本年度の愛知県臨床検査精度管理調査はこの“変化”を前に募集が始まり、過去最高となる141施設からの参加申込みがありました。

このらぼニュースが皆様のお手元に届く頃には、本年度の精度管理調査・結果検討会も終わっていることと思います。この検討会は、全国の都道府県技師会で唯一、愛知県だけがシステム的かつ継続的に実施しているサポート事業です。さらに今年度からは、新たに日本臨床衛生検査技師会（日臨技）サーベイ結果相談会を開催させていただきました。

日臨技サーベイは臨床検査項目のほとんどを網羅し、全国4000施設を超える施設が参加している規模・質ともに国内最大級の精度管理事業です。客観的な評価を実施し、その結果については公表されておりましたが、乖離が認められたご施設への対応については十分とは言えない現状がありました。そこで、愛知県特有である結果検討会のノウハウを駆使し、愛知県から日本全国をリードすべく、日臨技との共同事業の一環として日臨技サーベイ結果相談会を企画し開催致しました。ご施設が抱えている問題点を相互に確認し、解決策を導き出す過程をサポートさせていただく場を提供することを目的にし、盛会裡に執り行うことができました。ご参加して下さった皆様に感謝申し上げます。

精度管理調査には多くのマンパワーが必要です。精度管理事業部員だけではなく、さまざまな方面からのご協力をもって精度管理調査を実施させていただいております。この場をお借りし深く感謝申し上げます。

最後に、本年度の報告会は平成31年3月10日（日）に名古屋第一赤十字病院で開催致します。多数のご参加を愛臨技精度管理事業部一同心よりお待ちしております。

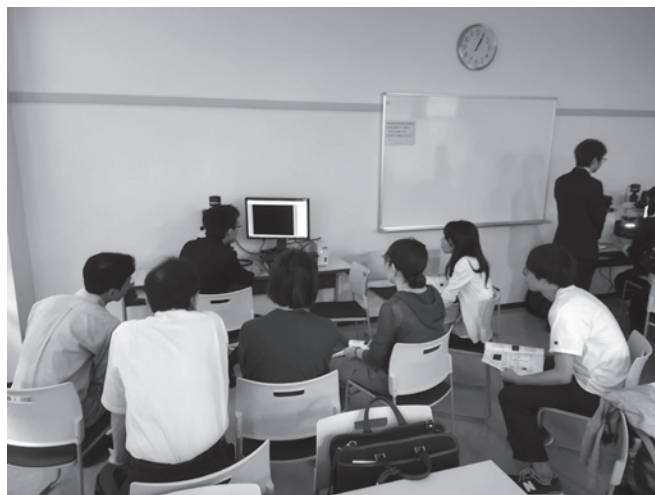
病理細胞検査研究班 基礎講座に参加して

名古屋第二赤十字病院 新田 憲司

9月16日(日)に名古屋大学医学部保健学科にて、平成30年度愛知県臨床検査技師会病理細胞検査研究班、基礎講座が開催されました。今回のテーマは、「肺がんUp-to-Date」で呼吸器分野における細胞診の基礎から標本の鏡検、FISH法を用いた遺伝子検査を講義から実習まで受講できるとあって、参加者は定員40名を50名に増員されたほど盛況でした。がんは、プレシジョン・メディシンにより近年コンパニオン診断が多様化しており、日本においては、厚生労働省よりがんゲノム医療の推進が掲げられています。とりわけ、病理検査技師においては、以前は標本の作製、細胞診断から、患者さんの治療方針の決定にまで関わるようになり、今まで以上に知識や技術が求められるようになってきました。

講義では、肺の解剖学から画像所見の見方、症例形式での細胞診断、FISH法を用いた遺伝子検査について分かりやすく、講演していただきました。実習ではAiCCLS細胞診アトラスを使った鏡検、FISH法を用いた染色体異常の観察をさせていただきました。肺の病変は、腫瘍だけではなく、結核やウイルス感染症等と多様な病変が存在し、なかには特徴的な細胞像を呈する病変もあり、病気の確定診断に細胞診は非常に有用です。日々のルーチン業務では、なかなか経験する事の出来ない症例の所見や細胞像を鏡検実習にて経験する事ができたのは、今後、そのような症例に遭遇した場合の診断に役立つと思います。また、遺伝子検査については摘出された病理組織検体の扱い次第で、正確な結果が得られない可能性がある事や、コンパニオン診断の応用を学びました。近年、遺伝子検査は、肺のみならず多臓器で求められ病理診断から治療戦略、患者さんの予後の推測にまで応用されるようになってきました。今後、ニーズが更に加速してくこの分野において、検査技師の知識、技術不足によって、本来、治療を受けることができたはずの患者さんが不利益をこうむらないように、自らの力量向上に取り組んでいきたいと思っています。

最後に、今回、このような講座を提供して下さった愛臨技研究班員の皆様方に深謝申し上げます。





名古屋大学医学部附属病院 宮川 純奈

平成30年9月16日(日)に名古屋大学医学部保健学科にて開催されました病理細胞検査研究班基礎講座「肺癌 Up-to-Date」に参加させていただきました。

午前は、肺の解剖や検査方法から始まり、肺の感染症、レントゲンやCT画像所見を用いた細胞診の見方、コンパニオン診断についてなど多岐にわたる講義があり、午後の実習ではFISH標本及び細胞診アトラス(AiCCLS)を用いた細胞診標本の鏡検に参加しました。

コンパニオン診断の講義では、検体固定時の浸透不全で、HE染色や一般的な免疫染色の染色性に問題がなくても、FISHやその他の遺伝子検査で不適切な検体となってしまう可能性が大きいことを再認識しました。また組織診断上で、症例によっては遺伝子検査の結果が良悪性の鑑別や予後を予測する重要な要素となってくる点も、今後の病理検査を考える上で重要な視点だと実感しました。

FISH標本の鏡検では、複数の原理を用いて染色した標本を見ることができました。判定の難しさ・熟練を要する技術に感嘆し、今回の勉強会で得た知識を積極的に活用していきたいと思いました。

最後にこの貴重な講座を開催してくださった全ての方々にこの場をお借りして心から御礼申し上げます。



Loyola University Medical Centerでの短期留学研修報告

名古屋第二赤十字病院 医療技術部 微生物検査室 原 祐樹

日本臨床衛生検査技師会がASCP (American Society for Clinical Pathology) と協働で実施する短期留学研修制度の留学生として、9月24日から28日までの5日間にわたってアメリカ合衆国シカゴにあるLoyola University Medical Center (LUMC) の微生物検査部門で研修を受けてきました。LUMCの臨床検査室は、自施設の中央検査室としての機能を持ちつつ、周辺医療機関の検体も取り扱う検査センターの側面を持っているため、病床数は550床ほどですが、検体の量は非常に多かったです(一般細菌の培養検査が1日200-300件出るそうです)。検査室は24時間365日稼働の3交代制(6:30-15:30、15:30-23:00、23:00-6:30)を敷いていました。米国ではこうした体制が一般的なようです。スタッフの数は朝シフトが15名、夕方シフトが4名、夜は1名とのことでしたが、朝シフトのスタッフの豊富さには驚きました。また、米国では部門ごとに採用されるので、日本のようにローテーションという概念がありません。さらに業務範囲が明確に定められているので、日本のように自部署の業務に加えてチーム医療、採血や当直までやるという働き方はありえないそうです。働いているスタッフの多くが、ASCPが認定する資格を保持していました。この資格が日本の臨床検査技師免許に該当します。ASCPの資格制度については、詳しい資料が他に出ておりますので本稿では割愛させていただきますが、検査室で検査室助手として実務経験を積みながら認定取得を目指される方もいます。そして、ASCPの認定を持つ方と持たない方で、担当業務範囲が明確に分かれていました。微生物部門に関しては、検査室助

手の方は検体受付、検体処理、POCT検査と塗抹までが業務範囲でした。それ以外の業務を担当できるのは認定を持つ方のみとなっていました。また、SpecialistやScientistといった資格もあるのですが、こうした資格を持つ方は業務の相談に対してアドバイスをするなど、日本でいう認定資格保持者に近い立場で仕事に携わっていました。微生物部門のワークフローやシステムについては、日本とほぼ同様でした。言葉の問題さえなければ、来週からでもLUMCで働けるのではと感じるくらいでした。米国の精度管理についてですが、少なくとも微生物部門の精度管理は日本よりかなり先に進んでいると感じました。分析装置は当然ですが、試薬や培地など検査室で使用するすべてのものがきちんと精度管理されていました。実際に精度管理表を見せてもらいましたが、エクセルシートに非常に細かく作りこまれており、項目ごとに担当責任者が決まっており、検査室のスタッフが分担して全員が行う形になっていました。精度管理に関する外部査察(精度管理記録のチェック)があるため、きちんとしなければいけないと説明してくれました。日米の精度管理については技師会活動の中でご報告できればと考えています。最後になりましたが、日本の臨床検査技師の皆さんがもつ知識や技術というのは、決して負けていないですし、米国でも十分に通じるものであると本研修を通じて確信しました。留学期間中の留守を預かっていただいた職場の方々、本研修をサポートいただいた日本臨床衛生検査技師会の方々、そして家族に感謝して本稿を終わらせていただきます。



フィリピン検査室訪問記

今年の7月にフィリピン共和国(以下フィリピン)の検査室を見学訪問しましたので報告させていただきます。

訪問の経緯は昨年参加した韓国で行われたアジア医学検査学会(AAMLS)に始まります。そこでフィリピン検査技師会のRomJと出会い、お互いの国の検査について談論するうちにフィリピンの検査室を実見したいと思い抱くようになりました。帰国後もその思いを忘れる事ができず、愛臨技理事である菊地先生の助けを借りながら、RomJとメールのやり取りを半年程度行いフィリピンの検査室を見学させて頂くこととなりました。

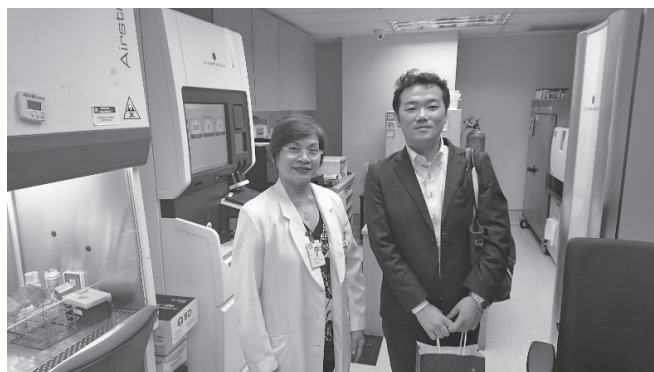
フィリピンは日本から飛行機で約4時間、距離にして約3000キロの距離にある東南アジアの島国であり、実質GDP成長率が5.9%とアジアで成長が期待されている発展途上国の一つです。そんなフィリピンには約1200の医療機関が存在し、うち約4割が公的医療機関、約6割が民間医療機関です。またその機能に応じてLEVEL1からLEVEL3の3つのLEVELに分類されており、LEVEL3の医療機関が最も高度な医療を提供しています。しかし日本の様

JA愛知厚生連 豊田厚生病院 永田 悠起
な保険点数制度はなく個々の病院において自由に診療費を定めている為、高度な医療を提供しているLEVEL3の民間医療機関を利用できる国民は全体の約3割程度といわれています。今回訪問させて頂いた施設も高度な医療を提供しているLEVEL3の医療機関の検査室でした。フィリピンで最も高度な医療を提供している施設の検査室だけあり検査種も多岐にわたり測定されていました。分析機器は日本製が多く使用されておりJapan Qualityに少し誇らしさを感じました。検査は日本と同様に生化学、血液、細菌などの分野にわかれ検査が行われていました。管理試料測定、機器保守、温度管理などをはじめとした様々な精度管理も日本と同レベルで実施されており、精度保証に対する意識の高さを実感しました。

今後も機会があれば、フィリピンの農村部の医療を見学したいと思いました。このような貴重な経験ができたのも一緒に働いている豊田厚生病院のスタッフや愛臨技の方々のサポートがあってこそ成し遂げられたと思っています。この場を借りて感謝申し上げます。



フィリピンの街並み



現地スタッフの方と私



地域ニューリーダー育成研修会に参加して

小牧市民病院 藤田 京子

過日10月12日から14日まで、静岡県熱海市で開催された「地域ニューリーダー育成研修会」に参加して参りました。この研修会は5年前より毎年継続されてきた企画で、今年はこれまでの参加者から1名が出席する形式でしたので、愛臨技よりお声がけいただき、私が参加させていただきました。

当日は熱海まで新幹線、そこからは研修施設のバスに乗り、海のイメージがある熱海でありながら山へ山へと登っていき、温泉気分やリゾート気分とは全くかけ離れた、本当に山の中の研修施設に到着しました。過去同様、スケジュールは早朝から深夜まで盛沢山の内容、部屋は4名1室の相部屋、研修会というよりも合宿という言葉の方がぴったりだと感じました。

研修内容は非常に充実しており、自己紹介を兼ねた「オフサイトミーティング」では、自身の思いを大切にしながら話し、聞き手は相手をより深く知りたいと思って話を聞き、自己発見や自己努力など、さらにどうしていきたいかを考えました。宮島会長や日臨技の先輩方の講義から医療情勢や社会情勢を学び、日臨技・検査技師の進むべき道を考えるものでした。ワールドカフェ方式での研修では、「10年後の日臨技のあるべき姿」とそのためのロードマップを作成し、各チームが趣向を凝らした内容を発表しました。

今回の研修では、全国の仲間と再会できることも、私の中では目的の一つでした。前回の仲間に加えて、さらに新たな交流を持つことができ、それぞれの活動を聞いたり、一緒に笑ったり悩んだり、全国に仲間が広がっていくことを実感しています。ロードマップ作製でも共通していたのは「日臨技と地臨技とが同じ目的を持ち、情報交換を密にしていけることが重要である」という認識であり、全国の仲間との情報交換を密に、我々検査技師の明るい将来のために活動していくことが重要であると感じました。



講義



メンバー

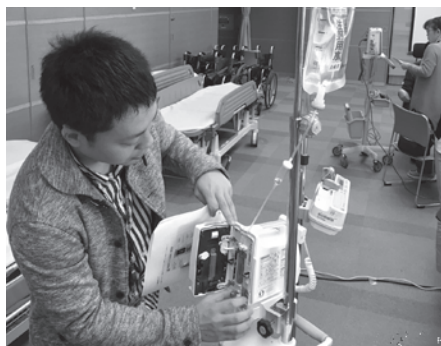


発表

多職種連携のための臨床検査技師能力開発講習会に参加して

名鉄病院 赤座久美子

平成30年10月27日、28日に春日井市民病院にて開催されました。平成26年の検査説明研修会、平成27年の検体採取に続く、チーム医療の推進に向けて日臨技、愛臨技による2日間企画であったので取り組みに共感し参加しました。はじめに宮島会長からのお話を聞き、鈴木博子さんから詳しい説明を受けました。他職種である薬剤師の先生、ME技師の方、看護師の方、理学療法士の方から、業務についての講義を聴講し、実習を行いました。数多くの器材が用意されており、受講生の一人一人が実習に参加出来、十分な時間を取ってありました。また、検体採取の実習も行い、厚生労働省指定講習会以来で、まだ業務として実施していない部分の採取についても経験することができ大変有意義な2日間でした。共に学んだ皆さんは年齢も経験も様々で、施設規模も異なる環境で働いている臨床検査技師の仲間とのチームワークもますます広がり強くなったと感じました。自施設でのモチベーションの向上にもつながりました。終わりに、企画開催の愛臨技会長をはじめ役員の皆さん方、ご協力いただいた多職種の組織の皆さんにも心よりお礼申し上げます。



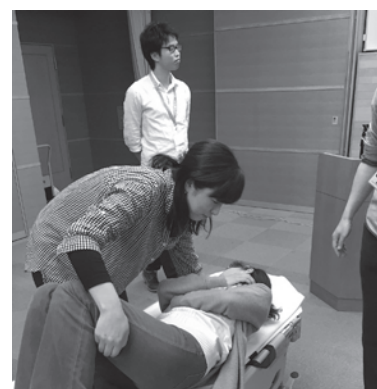
ベッドサイド機器



患者コミュニケーション



患者コミュニケーション



患者移乗

みんなで作る地域の病院

南医療生活協同組合 南生協病院 棚田総太郎

9月末に伊勢湾台風並みとも言われた台風24号が、この地方も襲いました。

伊勢湾台風というと、我々、南医療生協に勤めている職員にとっては特別な思いがあります。

南医療生協の歴史は1959年に名古屋市南部を水没させた伊勢湾台風の後から始まります。

全国から医療支援などの救援を頂きましたが、「自分たちの診療所が欲しい」との思いで、最初はたった308人の地域住民の手で南医療生協が発足しました。

小さな診療所から始まった南医療生協は、地域の皆様の手を借り、要望を聞きながら成長し、今では病院、診療所や介護サービスなどで37もの事業所にまで増え、ともに病院づくりに参加する利用者は8万人を超えました。

南生協病院は1976年に完成し、長らく名古屋市南区で地域医療に貢献してきましたが、地域の声に応えるには手狭となり、2010年より名古屋市緑区・JR南大高駅のすぐそばへ新規移転しました。

名古屋市緑区は中心街のベッドタウンとして現在も人口が増えつつある地区で、名古屋市南端で中核病院として新天地でも奮闘しております。

検査科は臨床検査技師24名で構成しており、物申す(?)アクティブな検査室として病院に貢献しております。

さて、南生協病院はちょっと変わった取り組みを行う病院としても話題になり、テレビ番組の「ガイ

アの夜明け」や新聞などのメディアに取り上げて頂くこともありました。

というのも、新天地でも変わらず、地域の方々と一緒になって病院作りをしていくのに加え、さらに多世代が交流できる街づくりをコンセプトに、病院と駅の間に、「よってって横町」という8階建ての小さな街の様な建物を作ったためです。

よってって横町は3～8階の医療・介護サービス、サービス付高齢者住宅に加え、1階の横町から病院ロータリーの通路には喫茶店、オーガニックカレー屋さん、コンビニ、本格的な窯焼きのパン屋さんから、学生さん向けに無料で開放された自習室、なんとBARまで併設。

横町2階にはイタリアンレストランや鍼灸院、歯科診療所、キッズコーナー、ウッドデッキ広場があり、広場ではヨガやダンスなどのイベントも行っています。

JR南大高駅から住宅地まで道のりが、これら病院のエントランス、よってって横町を抜けるように作っており、昼には近所のママさん世代が。夕方には自習室や広場を利用しに来た学生さんたちや、家へと帰るお父さん世代と、様々な世代が交流できる場所として広くご利用頂いております。

イオンモール大高もすぐそばにあります、健闘しております。

もしイオンまでお越しになる用事がありましたら、是非、よってって横町も見に来て下さい。



JR南大高駅から望むよってって横町。奥が南生協病院



病院ロータリーにはオーガニックレストランや石窯焼きのパン屋も

平成30年度 日本血小板・顆粒球型ワークショップ研修会

主催：日本血小板・顆粒球型ワークショップ

共催：バイオラッドラボラトリーズ株式会社・ベックマンコールター株式会社・株式会社イムコア

協賛：公益社団法人愛知県臨床検査技師会

開催日時：2019年1月19日(土) 13:30～16:00 (受付13:00～)

開催場所：名古屋VIP貸し会議室名古屋駅前店 4階 大会議室

〒450-0003 愛知県名古屋市中村区名駅南1-19-27 オルバースビルディング名古屋

参加費：無料

プログラム

第1部 講演 13:30～14:50

- | | | | |
|--------------------------|----|-----------------|-------|
| | 座長 | 東京大学医学部附属病院 輸血部 | 岡崎 仁 |
| 1. 新生児血小板減少症－疾患概念と病態 | | 関東甲信越ブロック血液センター | 津野 寛和 |
| 2. 新生児血小板減少症が疑われた時の検査と対応 | | 関東甲信越ブロック血液センター | 松橋 美佳 |

休憩 14:50～15:00

第2部 15:00～16:00

症例報告「血小板母児不適合妊娠」

- | | | | |
|--|----|------------------------|-------|
| | 座長 | 愛知県赤十字血液センター 学術課兼品質情報課 | 加藤 道 |
| 1. 二卵性双生児の一方に発症した抗HPA-4b抗体による新生児血小板減少症の一症例 | | 関東甲信越ブロック血液センター 埼玉製造所 | 小林 洋紀 |
| 2. 抗HLA抗体と抗HPA抗体が関与した新生児血小板減少症の一例 | | 順天堂大学医学部附属浦安病院 臨床検査医学科 | 大久保光夫 |
| 3. ABO不適合妊娠による新生児同種免疫性血小板減少症 | | 名古屋市立大学病院 小児科NICU | 加藤 晋 |



交通アクセス

- ・地下鉄東山線・桜通線「名古屋駅」7番出口より徒歩約7分
- ・名鉄名古屋本線「名古屋駅」中央改札口側出口より徒歩約7分
- ・近鉄名古屋線「名古屋駅」正面改札口側出口より徒歩約7分
- ・JR東海道本線・中央本線・関西本線「名古屋駅」桜通口より徒歩約9分

地区研修会のご案内

尾張北地区研修会

専門教科：20点

日時：平成31年1月16日(水) 18:30～20:00

場所：(株)スズケン名古屋支店 2階会議室

テーマ：遺伝子検査の基礎

～最新トピックスを交えて～

講師：1. シスメックス株式会社 高橋 新

2. 春日井市民病院 伊藤 彰吾

司会：春日井市民病院

神野 洋彰

内容：近年、遺伝子検査に関しては機器の簡易化、省スペース化に伴い各施設で導入され臨床診断には欠かせない検査の一つになっています。また、医療法の一部を改正する法律が平成30年12月1日に施行され、遺伝子・染色体検査を含む検体検査の精度の確保について厳しくなります。今回の研修会は遺伝子検査の基礎を学び返し、最新トピックスも交えながら各施設において適正な機器の選択や人員配置、また精度管理の在り方に関して役立てて頂くことを目的としました。春日井市民病院における全自動遺伝子解析装置の運用状況についてもお話しします。多数の参加をお願いいたします。

尾張東地区研修会

基礎教科：20点

日時：平成31年1月19日(土) 15:00～17:00

場所：愛知医科大学本館 302講義室

テーマ：医療法改正のポイントと精度管理

講師：1. 医療機関において実施すべき精度管理について

エスアールエル東海・北陸支店

東海・北陸検査部 森田 弘

2. 精度管理の実際（病院）

愛知医科大学病院 森部 龍一

3. 精度管理の実際（衛生検査所）

株式会社ファルコバイオシステムズ

東海中央研究所 藤原 和幸

司会：愛知医科大学病院

今井 正人

内容：2017年に成立した「医療法等の一部を改正する法律案」に盛り込まれた検体検査の精度確保について新たな規定が2018年12月1日から施行されることになりました。病院や診療所に対し検体検査を実施する場合についての精度確保規定が示され、人員確保やマニュアル・記録の整備などを実施しなければなりません。また、衛生検査所においても精度確保に向けて厳格な基準を遵守しなければなりません。今回、新たに規定された検体検査の精度確保についての重要なポイントや病院や衛生検査所の精度管理の実際を紹介し、検査精度の向上と精度管理の取り組みについて学んでもらいたいと思います。多くの方の参加をお待ちしております。

尾張南地区研修会

基礎教科：20点

日時：平成31年1月26日(土) 15:00～17:00

場所：だいどうクリニック5F 講堂

テーマ：病理解剖の現状と日欧比較

講師：大同病院 病理診断科 小島 伊織

司会：大同病院

森田 秀夫

内容：今年度の尾張南地区研修会は、病理学会主催の病理解剖トレーニングコースにてハンガリー式病理解剖を学ばれた小島先生より、病理解剖の意義から現状、更には剖検率の非常に高いハンガリーとの比較についてご講演いただきます。

知多地区研修会

専門教科：20点

日時：平成31年1月26日(土) 15:00～17:00

場所：半田市医師会健康管理センター

PET棟 大会議室

テーマ：採血業務における知識と注意点

- 講師：1. 当院における採血業務の実際
半田市立半田病院 山崎 章子
2. 神経損傷を受傷して
あいち小児保健医療総合センター
鈴木 花梨
3. 採血に関する知識と注意点
ー止血、神経障害、VVR、自己血糖測定ー
株式会社 ビー・エム・エル

司会：半田市立半田病院 村瀬 斉

内容：「採血」は、どこの施設でも当たり前に行われている業務ですが、きちんと勉強し、理解できている方は少ないと思います。今回、この「採血」をテーマに講演会を開催します。皆さんと一緒に勉強しましょう。

「愛臨技精度管理事業」

研究会

生理検査研究班

基礎教科：20点

日時：平成31年1月19日(土) 15:00～17:00

場所：名古屋市立大学医学部研究棟11階

講義室B

テーマ：平成30年度愛臨技サーベイ解説

- 講師：1. 愛臨技精度管理調査報告 総括
豊橋市民病院 手嶋 充善
2. 心電図検査
名古屋第一赤十字病院 倉田 貴規
3. 腹部・表在超音波検査
JA愛知厚生連豊田厚生病院
藤田 啓介
4. 心・血管超音波検査
名古屋第二赤十字病院 海老名祐佳
5. 脳神経検査

トヨタ記念病院

鍋谷 洋介

6. 呼吸機能検査

赤羽乳腺クリニック

山口 温子

司会：豊橋市民病院

手嶋 充善

研究会

遺伝子染色体検査研究班

専門教科：20点

日時：平成31年1月19日(土) 15:00～17:00

場所：(株)スズケン名古屋支店 2階 会議室

テーマ：「家族性腫瘍のがんゲノム医療」

- 講師：1. 「次世代シーケンサーによるゲノム医療」

藤田医科大学 総合医科学研究所

分子遺伝学研究部門 稲垣 秀人

2. 「遺伝性腫瘍と遺伝カウンセリング」

藤田医科大学 医療科学部

臨床検査学科 大江 瑞恵

司会：名古屋大学医学部附属病院 渡邊かなえ

内容：がんゲノム医療の開始を皮切りに、家族性腫瘍（遺伝性腫瘍）の遺伝子診断はより身近なものになりつつあります。次世代シーケンサー（NGS）により網羅的な遺伝子検査が可能となり、精密医療と呼ばれる新しい概念での医療応用が加速しています。家族性腫瘍の診断は、検査を受けた本人だけでなくご家族にも関わるため、診断結果の取り扱いなど、より注意が必要です。今回はNGSによる解析手法の基礎と、遺伝カウンセリングについて、ご講演していただきます。

2018年11月9日現在 正会員数 3,351名

平成30年度愛臨技 スキルアップ研修会

『救急病態と臨床検査を繋ぐ.Ⅲ』

- 【日 時】平成31年2月3日(日) 9:00～16:50(8:30から受付)
- 【会 場】名古屋市立大学医学部医学研究科・医学部研究棟11階 講義室A
- 【募集人数】150名
- 【参 加 費】会員 2,000円 他県会員 2,500円 非会員 4,000円
- 【申し込み】平成30年12月15日から平成31年1月15日まで[日臨技HP会員専用サイト](#)から事前申込。非会員の方は下記問い合わせ先まで直接ご連絡ください。
- 【生涯教育】専門 20点
- 【内 容】専門分野のコメンテーターが「腹痛に関する疾患」2症例の救急病態をみなさんと一緒に読み解いていきます。奮ってご参加ください。

【プログラム】

- 8:30～9:00 受付
- 9:00～9:10 オリエンテーション・開講式
- 9:10～10:10 講演1「血液ガスの理解を深めよう」
ラジオメーター株式会社 学術課 三沢 泰一
症例検討コメンテーター 岡崎市保健所 佐藤 千歳
藤田医科大学病院 水谷 有希
社会医療法人財団新和会八千代病院 新田永梨奈
JA愛知厚生連 豊田厚生病院 高井 美帆
公益社団法人 愛知医科大学病院 塚本実奈子
愛知県臨床検査技師会 総合大雄会病院 鈴木健太郎
JA愛知厚生連 江南厚生病院 原田 康夫
- 10:20～11:40 症例1「腹痛?!」
司会 豊橋市民病院 中央臨床検査室 内田 一豊
- 12:00～13:00 ランチョンセミナー「品質保証制度達成のために」
アボットジャパン株式会社 学術担当者
- 13:20～15:20 症例2「腹痛?!」
司会 愛知県がんセンター研究所 腫瘍免疫応答研究分野 鈴木 博子
- 15:40～16:40 特別講演「現場で経験した腹痛の対応と疾患」
愛知医科大学 救命救急科 助教 梶田 裕加
- 16:40～16:50 閉講式
問合せ先 豊橋市民病院 中央臨床検査室 内田 一豊
TEL: 0532-33-6111